



2025年1月号

# 新年のごあいさつ

腫瘍内科 「患者様が主役」のチーム医療を実現  
アイセンター 「目の健康を守る！」特別講演会



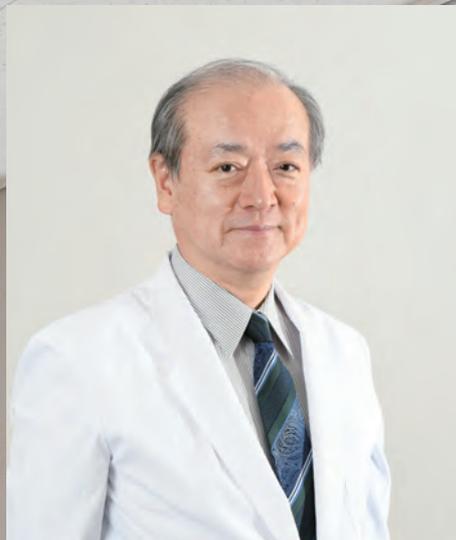
吹田徳洲苑施設長 叙勲

新たな手術支援ロボットを導入

クリスマスコンサートを開催

● Take Free ●

ご自由にお持ち帰り下さい



謹賀

20

医療法人徳洲会 吹田徳洲会病院

病院長 高橋俊樹

たかはしとしき

新年明けましておめでとうございます。

昨年7月に開院10周年記念フェスタを、12月には大阪府医師会フィルハーモニーの皆様によるXmasコンサートを催しました。フェスタでは猛暑の中、1200名の方に来ていただきました。ロボットを含む手術手技や各種精密検査、日常診療を模擬体験していただき、癌治療体験者の方の講演も聞いていただきました。Xmasコンサートには約500名の参加者が来られ、馴染み深い名曲や ディズニー音楽のメドレー、そして、最後に参加者全員による“ふるさと”の合唱を楽しんでいただきました。今年のXmasも開催する予定ですので、ぜひお越しください。

当院は「生命だけは平等だ」という理念のもと、「断らない医療」と「望まれる医療」、そして「患者様とご家族様に寄り添う医療」という三つの大きな指針を掲げて病院運営を行っています。本年は救急診療の体制を刷新し、癌診療のさらなる充実、各診療部門の体制強化も行っていきます。4月からは基幹型臨床研修病院として本格的に若手医師の教育も始まります。引き続き地域の皆様に満足していただける病院を目指して、全職員で精一杯力を合わせ努力していく所存です。

本年もよろしくお願い申し上げます。

新年

25



介護老人保健施設 吹田徳洲苑

施設長 酒井敬

さかいけい

新年明けましておめでとうございます。

吹田徳洲苑は開設10年が経過しました。当苑では一昨年より長期入所利用の皆様だけでなく、在宅でお過ごしの皆様にもご利用いただけるように、在宅のケアマネジャーの方々と連携を取り、訪問リハビリ・デイケア・短期入所などのサービスの利用を推進してまいりました。現在、訪問リハビリ月2名、デイケア1日平均26.9名、短期利用者月平均13.3名の方に利用していただいております。

新規の方がサービスを受けていただく場合には不安が伴います。短期入所利用の際には老健の担当者が担当のケアマネジャーの方と一緒に自宅に伺って、ご本人とご家族に直接説明申し上げる、アウトリーチという手法を用いてプランを立てさせていただいております。きちんと説明し、納得いただくと利用が長く継続し、効果が上がることが分かりました。これからも在宅生活支援を精力的に続けていきます。

本年もどうぞよろしくお願いたします。





## 総長 金香充範

かねこみつのり

皆様、新年明けましておめでとうございます。

当院は2014年開設、昨年2024年10月に開設10周年記念祝賀会を開催させていただきました。特別講演にはオーダーメイド医療で有名な中村祐輔先生（阪大卒、現国立研究開発法人医薬基盤・健康栄養研究所理事長）をお招きし、「AIとデジタルで心温まる医療を」と題する近未来の医療の在り方について10周年らしい意義ある講演をして頂きました。この10年間病院の基礎を作り上げるのに努力を重ねた職員に頭の下がる思いとともに、こうして次の10年に向けて新たにスタートを切ることができますのも、ひとえに地域住民の皆様のご愛顧とご支援の賜物と深く感謝申し上げます。本年も引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。



## 事務部長

泊谷 壽也

とまりやとしや

明けましておめでとうございます。昨年は開設10周年の年であり、地域の方々には10周年フェスタを、お世話になった関係各位には10周年記念式典を開催させていただき、感謝の気持ちをお伝え出来たと思っております。

2025年、新たに迎える「巳年」の「巳」という文字は、へびが冬眠から覚めて地上に這い出す姿を表しているとも言われ、「起こる、始まる、定まる」などの意味が有るそうです。当院も11年目に新しい事を起こし更なる発展と、地域の皆様により良い医療サービスが提供出来るように努力いたします。

ご支援賜りますようお願い申し上げます。



## 看護部長

崎山 昌代

さきやままさよ

新年明けましておめでとうございます。昨年中は皆様にご支援いただき、ありがとうございました。

本年は巳年。脱皮をするへびのイメージから巳年は「復活と再生の年」、また「巳」を「実」にかけて「実を結ぶ年」とも言われます。

看護部では認定看護師をはじめ資格要件を取得した看護師が10名以上在籍するようになりました。育ってきた彼ら・彼女らの能力を、全職種の間際の力と合わせ、なお一層地域の皆様のお役に立てるよう努めてまいります。

本年もよろしくお願い申し上げます。



副院長  
北田文則  
きただふみのり

新年おめでとうございます。

昨年は目指していた地域がん診療連携拠点病院の施設認定を取得できませんでした。本年こそは獲得する必要があると考えております。当院は、ダヴィンチ等の低侵襲手術、放射線治療、抗癌剤、免疫チェックポイント阻害剤、遺伝子治療薬等、多種のがん治療を行っており、さらにはがん疼痛治療等のがんサポートケアも充実してきました。地域での重要ながん治療の拠点になれるよう頑張りたいと思います。



副院長  
眞野富也  
まのともや

明けましておめでとうございます。

2017年にアイセンターがオープンして7年と6か月が経ちました。オープン以来開業医の先生からの紹介も徐々に増え、また地域の皆様にも吹田徳洲会病院の眼科が認知されてきました。これまで白内障だけでなく、緑内障、網膜疾患、角膜疾患、眼瞼、涙道など幅広い眼科疾患に対応してきましたが、眼科学の診断と治療は急速に進歩してきております。常に最新の知識を吸収し患者さんの治療と看護に活かせるようにこれからもスタッフ一同日々研鑽していきたいと思っております。



副院長  
公文啓二  
くもんけいじ

明けましておめでとうございます。

本年は巳年です。へびといえばわれわれ医療従事者は医学と医療の象徴で世界保健機関(WHO)のロゴマークにもあしらわれているへびの巻き付いたギリシア神話に登場する名医アスクレピオスの杖を思い起こします。医学と医療の益々の発展を期する年であろうと思っております。スーパーICUでは医療チームが一丸となって重症患者様への集中治療のさらなる向上を図り、安心・安全の医療を提供します。



副院長  
上田弘樹  
うえだひろき

新年明けましておめでとうございます。化学療法センター/がん薬物療法を担当しています。

薬物療法はがん診療連携拠点病院の指定要件のひとつであり、がん患者様の約2/3の方が受ける身近で大事な治療です。標準治療は免疫チェックポイント阻害剤やADC(抗体薬物複合体)の登場で急速に進化し、がんゲノム医療も発展しています。最新の標準治療を安全に提供できるよう努めていきたいと思っております。

本年もよろしくお願いたします。

# 副院長・化学療法センター長 上田弘樹（腫瘍内科）

スペシャリストが集結し「患者様が主役」のチーム医療を実現



## 臓器横断的に標準治療を提供

高度化・多様化するがん診療のさらなる充実と強化のひとつとして、がん薬物療法の専門家として、副院長・化学療法センター長に就任（2024年10月）し、がん診療に従事しています。

腫瘍内科の大事な役割のひとつとして、固形がんの臓器横断的な標準治療の実践があります。大腸がん等の消化器がん、乳がん、婦人科がん、泌尿器がん、肺がんや、原発不明がん、希少がんまで多領域のがんが対象となり、当院では各診

療科との臓器横断的な連携を実践していきます。

また、がん薬物療法専門薬剤師や看護師、がんリハビリに従事する理学療法士等のリハビリ職、管理栄養士、MSW（メディカルソーシャルワーカー）等の多職種協働によるチーム医療を実現し、安全かつ安心ながん診療を提供します。

さらには、地域のかかりつけの先生、他の病院の先生方、薬局薬剤師の皆様との連携も必要不可欠です。お一人おひとりのがん患者様を主役とした、広い意味でのチーム医療の実現をめざしています。



## “垣根のない”連携で集学的治療を実践

がんの三大治療とされる手術療法、放射線療法、薬物療法に加え、緩和ケアを含め4大治療とされますが、この他に免疫療法等も行われるようになりました。一つひとつの治療も大切ですが、幾つかの治療法を組み合わせることによって、治療効果の向上につなげることを集学的治療と呼びます。“垣根のない”連携により集学的治療を可能にすることが当院の強みのひとつです。



また、当院がん相談支援センターでは社会福祉士が常駐し、患者様の経済的な悩みや就労支援等をサポートする他、病院内で定期的ながんサロンを開設し、患者様・ご家族の交流や情報交換の場を設け、がん患者様の生活に係る包括的な支援にも力を注いでいます。

腫瘍内科は当化学療法センターの中に診察室を開設しており、敷居の低い受診環境で抗がん剤治療やご相談に対応させていただいております。



# 多世代の人々に向けた「目の健康を守る！」特別講演会を開催

～小児への「近視」進行予防の重要性を警鐘 白内障治療について詳細な説明も～



11月2日(土)、当院講堂にて眞野富也アイセンター長・副院長による特別講演会「目の健康を守る！～各世代の人達への熟練眼科医からのアドバイス」を開催しました。

講演会は、前半を若い世代、後半は60代以上の方を対象とする2部構成です。

眞野センター長は、まず乳幼児・子どもから40歳代位までの世代について「3歳児の眼科検診は、早期治療の必要性からも極めて重要です」と説明。また検診によって重篤な先天眼疾患が発見できることも踏まえ「20歳までは近視の進行と予防がとても大切」と強調し、近視を防ぐための生活習慣を解説しました。このほか、「屈折矯正手術」や「レーシック」、「眼内コンタクトレンズ」など近視進行抑制治療について紹介しました。

後半では60代以上に多い老眼の対策や、白内障等の高齢者特有の眼科疾患を取り上げました。「世界の失明原因の第一位は白内障」と警鐘を鳴らし、病態や関連疾患、また治療について「基本的な治療は点眼薬、手術だが、前者は進行の抑制には効果があるものの根本的な治療にはならない」とし、一連の手術の流れとして①眼球の壁を切開②水晶体の袋を切り取る③水晶体を超音波で吸い取る④眼内レンズを挿入⑤傷口を閉じる——等を写真データや図表を駆使しながら丁寧に説明。更に、当院で導入する最新鋭のフェムトセカンドレーザーを用いた白内障手術と、従来との手術法の違い等を具体的に紹介しました。

当日は幅広い年代の方が参加し、講演終了後は眞野センター長との間で活発な質疑応答も交わされ、盛況裏のうちに終了しました。



当日は雨天にも係わらず、100名を超える地域住民が参加され盛況でした。

## アイドック

この秋より新たにスタートした当院のアイドックで、  
白内障・緑内障・加齢黄斑変性のチェックをしてみませんか。

メニュー 視力・眼圧検査 広角眼底撮影  
光干渉断層撮影 眼科専門医による診察

費用 5,500円 (税込)

実施曜日・時間 月～金/13:30-15:30 土日祝休 (完全予約制)

専用ダイヤル 06-7670-0278

お問合せ受付時間 月～金/13:30～16:30 土/9:00～12:30 日祝休



## 医療講演告知 当院眞野富也医師による特別講演「近視の治療-ICLとLASIK-」

近視治療のICL、LASIK。「興味はあるけれど、怖い治療じゃないのかな」とお思いの方、ぜひお越しください。

日時 2025年3月1日(土)14:00-15:00(予定)

場所 立命館大学大阪いばらきキャンパスA棟

〒567-8570 大阪府茨木市岩倉町2-150

講師 眞野富也(アイセンター長・副院長)

ほか 受講無料・事前申込不要

講演内容については調整中であり、変更する可能性があります。最新情報は当院ホームページにてお確かめください。



## 吹田徳洲苑施設長 叙勲

秋の叙勲で、吹田徳洲苑の酒井敬施設長に瑞宝単光章が授与されました。瑞宝賞は公共的な業務において功労を積み重ね、業績を挙げた人に授与されるものです。酒井施設長の長年にわたる老人保健施設への献身的な従事が認められての叙勲となりました。



## 新たな手術支援ロボットを導入

当院ですでに稼働中の手術支援ロボット「ダビンチ」に加え、さらに腹腔鏡下手術の支援ロボット「センハンスデジタルラパロスコピーシステム」を設置しました。正確で安定した手技を叶えるこの機器は、まず婦人科の手術で導入されます。



挨拶をする酒井施設長



## クリスマスコンサート

12月21日(土)、当院ホールで大府医師会によるクリスマスコンサートが開催されました。例年好評のイベントで、この日も500人近い多くの方が来場され、クリスマスの雰囲気たっぷりの音楽や指揮者体験、「ふるさと」の合唱を楽しんでいただきました。



盛況の様子



医療法人徳洲会  
**吹田徳洲会病院**  
06-6878-1110(代表)



介護老人保健施設  
**吹田徳洲苑**  
06-6878-9100(代表)



〒565-0814 大阪府吹田市千里丘西21-1  
<https://www.suita.tokushukai.or.jp>